

【第98回生涯教育講座】

冠動脈疾患をめぐる最近の話題

ーガイドライン改定とがんと関連についてー

お だ てい じ
織 田 禎 二

キーワード：冠動脈疾患，心筋梗塞，前立腺がん，冠血行再建術適応ガイドライン改定

要 旨

冠動脈疾患は食習慣の変化，人口の高齢化により増加している。一方がんの罹患も高齢化により急速に増加しており，その結果として両疾患をともに患う高齢者が増加しつつある。安定狭心症に対する冠血行再建術について本年適応ガイドラインが改定されており，その順守は重要であるが，さらにこの新しい局面に対してがん・心臓病の専門性を超えた幅広い知識習得が両方の臨床医にとって必要になると思われる。

は じ め に

冠動脈疾患は食事などの生活習慣の変化により，そしてまた人口の高齢化に伴い増加しつつある。高齢者，特に80歳以上の超高齢者は，単に高齢であるだけでなく，がんなどの合併疾患を抱えている場合が多く，冠動脈バイパス術（CABG）や経皮的冠動脈インターベンション（PCI）などの治療方針の決定には慎重な判断が必要である。今年2月18日，東大病院で天皇陛下に冠動脈バイパス術が行われた。東大病院の医師団は二枝病変（前下行枝と回旋枝）に対して，本邦で特によく普及しているPCIでなくCABGを選択した。この判断は，現在の本邦におけるCABGの非常に良好

な手術成績を重視していることを示しており，また今年1月に完成した本邦のガイドライン改定版「安定冠動脈疾患に対する冠血行再建術（PCI/CABG）ステートメント&適応」の基本的姿勢と一致するものとなっている。この小稿では，この改定ガイドラインについて，またがんと心臓病（特に冠動脈疾患）の関連について述べる。

安定狭心症に対する冠血行再建術
適応ガイドラインの改定

安定狭心症でかつ高度の冠動脈疾患を有する患者に対して，薬物治療と冠血行再建術のどちらを選択すべきか，また冠血行再建術の適応がある場合にPCIとCABGのどちらを選択すべきかについて，本邦での初めてのガイドラインは2001年日本循環器学会により作成され公表された。その後，PCI治療ではステント，薬物溶出性ステントが登

Teiji ODA

島根大学医学部循環器・呼吸器外科学
連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1